

# 越中福岡の菅笠

## 【産地の特色】

越中福岡の菅笠は、江戸時代に加賀藩が生産を奨励し、仲介人・問屋の手で全国に流通した。

菅笠は、素材のスゲが天日干しによって脱色されることで撥水・防水・防虫・芳香などの特性を持ち、笠に仕立てれば軽いうえに両手で作業ができることから、農作業の日除け・雨除けの必需品として重宝されてきた。

江戸時代から主に農閑期の内職として生産されてきた菅笠は、男性が笠骨を、女性が笠縫を担当し、工程を分担する生産体制が現在まで引き継がれている。

他の菅笠産地と比較しての特長は、原材料の栽培から製造、出荷までを一貫して行うことができる国内最大の産地であって、全国に向けて出荷している点である。

戦後の農業は、機械化により、従来の農作業様式から大きく変化した。多くの農業従事者が農業用機械を導入し、手作業が減少したこと、また安価な帽子や新素材の雨具の普及により、菅笠の需要が減少してきた。このことから、高岡市福岡地区では平成20年に「越中福岡の菅笠製作技術保存会」を結成し、技法を守る後継者育成活動等を行っている。また、減産が続くスゲ栽培の対策として「越中福岡スゲ生産組合」を設立して、栽培農家への支援策や新規参入者への技術指導・育成、営農組合による栽培を実施している。

平成29年11月に「越中福岡の菅笠」として、国の伝統的工芸品の産地指定を受け、関係団体の連携と産業振興のため「越中福岡の菅笠振興会」を設立。新商品開発、販路開拓、後継者育成等の活動に取り組んでいる。

近年は、富山県産業技術研究開発センター生活工学研究所との共同開発による「染めスゲ」を活用した菅笠・アクセサリ・小物等の商品化が進められている。

## 【動向】

令和6年度の販売額は約1千4百万円であり、令和4年度比36.6%減少しており、減産が続くスゲ栽培の対策や担い手の育成と合わせ、新商品開発や販路開拓等に取り組んでいく必要がある。

菅笠は、祭事等の衣装の用途としての需要が大きな割合を占めることから、今後各地における祭事の再開によって販売額が回復することを期待したい。

## 越中福岡の菅笠

【販売額の推移】(単位:千円、%)

年	販売額	前回比
2020(令2)	27,060	-
2022(令4)	22,202	82.0
2024(令6)	14,083	63.4

【年間販売額の品種別割合】(単位:%)

品種	2024(令6)
菅 笠	95.0%
笠以外の菅製品	5.0%
計	100.0%

【地域別販売割合】

